

2016年度 経営学研究科(経営学専攻) 博士前期(修士)課程シラバス

科目名(副題)	開講年次(セメスター)	単位	担当者名
簿記原理研究B	1・2年次秋学期 (2・4セメスター)	2	吉田康英
授業概要			
本授業では、会計学の基礎となる簿記について、両者の相互関連性を重視した授業を行います。簿記と会計学は両輪の関係にあり、簿記(会計学)を学べば、会計学(簿記)の理解も深まります。授業では、受講生の要望も加味しつつ、基本的には会計処理(仕訳)を学習します。なお、必要に応じて、仕訳の裏付けとなる会計理論にも触れていきます。			
授業目標(到達目標)			
本授業では、研究者であれば理論の裏付けができる水準、職業的専門家であれば実際の取引に直面した場合に適切な処理ができる水準の簿記知識の体得を到達目標にします。			
授業方法			
各論点について、問われている問題や理論的な背景について、会計基準で確認した後に簿記での仕訳を検討することを通じて、実務と理論の双方向性を確保した授業方法を基本とします。			
成績評価方法・基準			
授業中の質疑応答の内容及び授業中に毎回実施する小テストの結果による総合評価によります。			
教科書・教材・参考文献 等			
教科書は初回のガイダンス時に指定するほか、毎回の授業時に教材として補助プリントを配布する予定です。			
質問への対応(オフィスアワー等)			
月曜日4限のオフィスアワーのほか、電子メール(yyoshida@mecl.chukyo-u.ac.jp)でも受け付けます。			
授業計画			
	項目	内容	
1	ガイダンス	学部レベルの簿記の復習のほか、講義の進め方等の説明を行います。	
2	簿記の基礎	簿記の役割と限界、会計学との関連性を学習します。	
3	簿記一巡の手続(その1)	仕訳から元帳転記まで範囲につき、説明及び演習を行います。	
4	簿記一巡の手続(その2)	試算表から精算表までの範囲につき、説明及び演習を行います。	
5	資産の取引(その1)	流動資産の範囲につき、説明及び演習を行います。	
6	資産の取引(その2)	固定資産の範囲につき、説明及び演習を行います。	
7	資産の取引(その3)	繰延資産の範囲につき、説明及び演習を行います。	
8	負債の取引(その1)	流動負債の範囲につき、説明及び演習を行います。	
9	負債の取引(その2)	固定負債の範囲につき、説明及び演習を行います。	
10	負債の取引(その2)	引当金の範囲につき、説明及び演習を行います。	
11	収益の取引	収益の範囲につき、説明及び演習を行います。	
12	費用の取引	費用の範囲につき、説明及び演習を行います。	
13	特殊分野の取引(その1)	金融商品のうち、難解とされるデリバティブにつき、説明及び演習を行います。	
14	特殊分野の取引(その2)	割引現在価値を用いる取引につき、説明及び演習を行います。	
15	まとめ	授業全体のまとめ、今後の学習指導等を行います。	
履修者へのコメント・学習課題(事前事後学習)			
電卓を持参してください。なお、簿記は積み重ね学習につき、前回の授業で指示した事前課題に取り組んだ上で、当日の授業に臨んでください。			